

市民参加の取組み実施状況

6月から10月の期間中、自然再生協議会各小委員会が実施した市民参加の取組みは以下のとおり。

主催	イベント名	開催日
湿原再生小委員会事務局 (釧路開発建設部治水課)	「幌呂地区湿原再生」観察・体験会	7月20日(土)
水循環小委員会事務局 (釧路開発建設部治水課)	「水・物質循環」現地見学会	10月26日(土)
土砂流入小委員会事務局 (釧路建設管理部治水課)	第10回 久著呂川 自然再生 見学ツアーハイ	8月21日(水)
森林再生小委員会事務局 (釧路湿原森林ふれあい推進センター)	第1回「雷別ドングリ倶楽部」	6月25日(火)
	雷別～植樹に行こう Yo!	6月29日(火)
	第2回「雷別ドングリ倶楽部」	9月25日(水)
	企業と連携した広葉樹の森林づくり	9月28日(土)
再生普及小委員会事務局 (環境省釧路自然環境事務所)	市民講座 釧路湿原の『すごい!』を体験しよう はじめての釧路湿原!	10月26日(土)

現地見学会等 実施報告書

日 時：令和6年7月20日（土） 8：30～15：00

場 所：阿寒郡鶴居村字下幌呂

行事名：「幌呂地区湿原再生」観察・体験会

主催者：湿原再生小委員会事務局（釧路開発建設部治水課）

参加者人数：16名

取組の概要

釧路湿原では、過去に損なわれた湿原環境を取り戻す取組である「釧路湿原自然再生事業」が行われています。その一環である、未利用地を湿原に再生する鶴居村幌呂地区の湿原再生現場において、地域住民の皆さんに事業実施後の植生の見学や、湿原の魚類の観察、泥炭の観察、湿原を代表する植物であるヨシの移植体験、ハンノキ環状剥皮（巻枯らし）に参加していただき、自然再生事業への理解を深めていただきました。



泥炭の観察

泥炭がいかに多くの水分を含むことが出来るのか、実際にさわって重さを確認。



ヨシの移植 穴を掘りヨシの苗を移植しました。泥炭の地面は植物が分解されず堆積して圧縮され、穴を掘る作業もなかなか大変です。

環状剥皮 増加したハンノキを枯死させるために樹皮を剥ぐ作業。きれいに剥がせています。

主催者の感想

今年で12回目となった「幌呂地区湿原再生」観察・体験会は、高温多湿の中での開催となりました。体力的に大変な作業もありましたが、参加者からは「湿原を再生することの大変さを学んだ」「これまでに植えたヨシの生育を見ることができた」「説明を受けてから実際に体験でき、とても有意義でした」など、好評の声をいただきました。

現地見学会等 実施報告書

日 時：令和6年10月26日（土） 8:30～16:00

場 所：標茶町二本松地区、鶴居村キラコタン岬、雪裡川

行事名：「水・物質循環」現地見学会

主催者：水循環小委員会事務局（釧路開発建設部治水課）

参加者人数：19名

取組の概要

釧路湿原が形成し維持される仕組みについて、地域住民に学んでいただく「水・物質循環」現地見学会を開催しました。

午前中は釧路川沿いの二本松地区で、むき出しになった地層を見学し、釧路湿原の成り立ちについて学習しました。その後、釧路湿原の北に位置するキラコタン岬で、約5kmの遊歩道を歩きながら、湿原を流れる川や湧水、植生などを見学し、釧路湿原の地質構造や水の循環、土砂の流入について説明を行いました。キラコタン岬は、天然記念物の指定地域及び釧路湿原国立公園の特別保護地区に区分され、立ち入りには許可が必要であるため、参加者の皆さんには貴重な体験となりました。

午後はタンチョウ撮影ポイントとして人気の雪裡川音羽橋で、UAVによる上空からのライブ映像を観聴し、ハンノキ林の分布状況の変化について解説を行いました。

その後は新釧路川右岸堤防でエゾシカの群れやタンチョウ、湿原独自の植生などを車窓から見学し、川の水流を調整するために建設された横堤で、過去の洪水や堤防の役割について説明を行いました。

どの見学場所でも、参加者の皆さんは大変熱心に説明に耳を傾けていました。



二本松地区露頭で、地層の形状
から湿原の成り立ちを説明。



キラコタン岬から湿原深部を展望。



UAVによる音羽橋上空からのラ
イブ映像を体験。

主催者の感想

当日は晴天に恵まれ暖かく、澄んだ空気の中40分ほどかけて歩いたキラコタン岬では、湿原深部の壮大な景観を見渡すことができました。参加者の皆さんからは、「釧路湿原のいろいろな役割を知ることができた」「専門的な説明と立入禁止区域での見学がとても貴重な体験」「ドローンを使用した雪裡川の映像が興味深かった」など、たくさんのお評の言葉をいただき、大変充実した見学会となりました。

現地見学会等 実施報告書

日時：令和6年8月21日（水）9:00～16:00

場所：久著呂川の土砂流入対策箇所等（鶴居村・標茶町）

行事名：第10回 久著呂川 自然再生 見学ツアー

主催者：土砂流入小委員会事務局（釧路建設管理部治水課、釧路開発建設部治水課）

参加者人数：9名

取組の概要

久著呂川の上流、中流、下流を順番に巡り、自然再生の取り組み（久著呂川の土砂対策）を学ぶ“久著呂川 自然再生 見学ツアー”を開催しました。

久著呂川 自然再生 見学ツアーは、釧路湿原への土砂流入対策の取組や水辺環境の回復状況について、見学・体験するツアーです。

上流域では、魚類や水生昆虫を観察しながら自然の状態に近い河川の特徴を理解して頂きました。

河道の安定化対策を実施した区間では、胴長を着用して川に入って箱メガネ、タモ網を用いて川の中を泳ぐ魚類の観察、底生生物の捕獲を行う等、水辺環境の回復状況を体験し、対策の効果を実感して頂きました。

その後、水辺林・緩衝帯の初の取り組みとして、苗ポットの作成を体験しました。最後に、下流域の河川沿いの土砂調整地、排水路合流部沈砂池、湿原流入部の土砂調整地の整備状況、土砂の堆積状況を見学しました。



主催者の感想

上流域の未改修の水辺環境の特徴を学んで頂き、その後、中流域における取組の説明を行い、魚類などの観察や底生生物の捕獲等を体験し、対策の効果を実感しました。このことで、対策を実施したことによる効果を感じて頂きました。

移動中の車内や、見学箇所の説明を通して、久著呂川の土砂流入対策について理解を深めて頂きました。

参加者のアンケート結果より、見学ツアーの満足度が高く、今後も釧路湿原の保全や再生活動に関わりたいという意見が多いことが分かりました。特に、今回実施した苗ポット作成体験により、引き続き、水辺林・緩衝帯の取り組みに参加したい意見もありました。

今回も初参加者が多く、見学ツアーは、久著呂川の土砂対策事業の普及啓発を行う上で、重要な取り組みの一つであると考えています。

現地見学会等 実施報告書

日時：令和6年6月25日（火）9:00～16:00

場所：雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別／根釧西部森林管理署 293林班）

行事名：第1回「雷別ドングリ倶楽部」

主催者：森林再生小委員会事務局（釧路湿原森林ふれあい推進センター）

参加者人数：18名

取組の概要

「雷別ドングリ倶楽部」は、高齢級のトドマツ人工林が気象害によって立ち枯れし、箇所が広がっている雷別国有林をフィールドとして、平成19年7月から森林再生等に取り組んでいるボランティアの方々の集まりです。

今回は雷別地区自然再生事業地の箇地10で、郷土樹種であるミズナラ、ヤチダモ、カツラ、キハダ計70本を植樹するとともに、植栽木をエゾシカやノウサギ等の野生生物の食害から守るため保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。



植樹の様子



保護管組立ての様子



保護管設置の様子

主催者の感想

今年度から新たに参加する会員の方が6名いましたが、ベテランの会員の方々から手ほどきを受け作業を行い予定していた活動を無事、終了しました。

参加者からは、「ふれあいセンターの方から、森林や樹木の話を聞けて良かったです。今日、植えた木の名前も覚えることができました。」や「苗木が無事育ってほしい。また、参加したい。」等の声があり、森林再生の取組みの理解を深められて意欲をより高めていただけたようです。

現地見学会等 実施報告書

日時：令和6年6月29日（火）9:00～16:00

場所：雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別／根釧西部森林管理署 293林班）

行事名：雷別へ植樹に行こう Yo !

主催者：森林再生小委員会事務局（釧路湿原森林ふれあい推進センター）

参加者人数：4名

取組の概要

この活動は、地域住民から参加者を募集し「植樹」等を通じて、森林再生への理解を深めていただく目的で実施しました。

当日は午前中に雷別地区自然再生事業地の箇地10で、郷土樹種であるミズナラ、ヤチダモ、カツラ、キハダ計30本を植樹するとともに、植栽木をエゾシカやノウサギ等の野生生物の食害から守るため保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。

午後からは、別寒辺牛川の中流に位置するパイロットフォレストに移動し、望楼（高さ約24m）から林内を眺望しました。



植樹されたキハダ



保護管組立ての様子



望楼と参加者

主催者の感想

植栽箇所は箇の根が多い箇所で、参加者は植穴を耕すのに苦労されていたようです。

パイロットフォレストでは、当時の造成過程等の説明を受けながら望楼の最上階を目指し、最上階ではゆっくりと景観を楽しんでいる方、記念撮影をされている方、当センター職員へ積極的に質問をされている方等、それぞれの方々が望楼での体験を満喫されていたようです。

参加者からは、「来年も参加したい」との声があり、当日は天候にも恵まれ、地域住民の皆様と広葉樹の森林づくり等を通して、森林再生への理解を深めていただくことができ有意義な活動となりました。

現地見学会等 実施報告書

日時：令和6年9月25日（水）9:00～16:00

場所：雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別／根釧西部森林管理署 293林班）

行事名：第2回「雷別ドングリ倶楽部」

主催者：森林再生小委員会事務局（釧路湿原森林ふれあい推進センター）

参加者人数：20名

取組の概要

本年度第2回目の「雷別ドングリ倶楽部」は会員20名が参加し、郷土樹種であるミズナラ、ヤチダモ、カツラ、キハダ計90本を植樹するとともに、植栽木をエゾシカやノウサギ等の野生生物の食害から守るため保護管（ツリーシェルター）で被覆しました。



植樹の様子



保護管組立ての様子



保護管設置の様子

主催者の感想

会員の方々は手際良く植樹を進められたことで、予定より早く作業が終わりました。また、あちらこちらで雑談する様子も見られ、会員同士の交流がより深まった一日となりました。

参加者からは、「エゾシカだけではなく、ノウサギの食害にも注意を払う必要があるんですね。勉強になりました。」や「来年も植樹に参加したいと思います。」等の声があり、森林再生の取組みの理解を深められて意欲をより高めていただけたようです。

現地見学会等 実施報告書

日時：令和6年9月28日（土）9:00～12:00

場所：雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別／根釧西部森林管理署 293林班）

行事名：企業と連携した広葉樹の森林づくり

主催者：森林再生小委員会事務局（釧路湿原森林ふれあい推進センター）

参加者人数：17名

取組の概要

この取組みは、札幌に支店を置く企業等が社会貢献活動の一環として当センターと連携し、森林再生の取組みを行っているもので今回が第7回目となります。

前日の雨で当日は天候が心配されましたが、ミズナラ、ヤチダモ、カツラ、キハダ計110本を植樹するとともに、植栽木をエゾシカやノウサギ等の野生生物の食害から守るため、生分解性の保護管（ツリーシェルター）で被覆し今回で累計1000本を超える節目となりました。



植樹の様子



植樹説明と保護管組立ての様子



集合写真の様子

主催者の感想

参加者の方々は植樹班と保護管の組立て班に分かれて活動し、これまでの参加者が多いこともありスムーズに作業が進み予定時間より早く終了しました。

参加者からは、「貴重な経験ができた。」「植樹した全景は壮観だった。」等の声があり、植樹箇所の風景を写真に収めている方もいました。

来年度以降も企業と連携して、広葉樹の森林づくりを検討したいと考えています。

市民講座実施報告書

日時：令和6年10月26日（土） 10:00～12:30

場所：釧路湿原右岸堤防南側湿原（鶴居村温根内）

行事名：市民講座 釧路湿原の『すごい！』を体験しよう　はじめての釧路湿原！

主催者：再生普及小委員会事務局（環境省釧路自然環境事務所）

参加者人数：9名

取組の概要

一般市民の方に釧路湿原の価値や魅力を改めて知っていただく機会として開催しており、今年度は釧路湿原右岸堤防南側湿原を訪問しました。

普段は立ち入ることのできない湿原内部に立ち入り、湿原におけるハンノキの機能、蛇行する河川の機能、湿原の中核であるヨシ・スゲ湿原、雨水に涵養されるミズゴケ湿原について実際に調査体験をしながら学びました。



事前レクチャー



水質調査体験



ミズゴケ湿原での解説

主催者の感想

ビジターセンター等では、湿原について詳しく学ぶことができます。しかし、フィールドに踏み出して、その場で専門家の方のお話を聞くことに勝るものはありません。例年に引き続き、今回の講座でも、参加者の皆さんには、楽しく、釧路湿原の多くの魅力と価値を体感することができたはずです。アンケートでは、「体験⇒学校教育（教科学習）とのつながりの面白さ」というフィードバックをいただいており、市民講座又は観光と教育との連携可能性が示されたように思います。

参加者アンケート集計結果

- アンケート配布行事数：6 行事
- アンケート回収数：74 名分

※行事名称の略称は以下のとおり

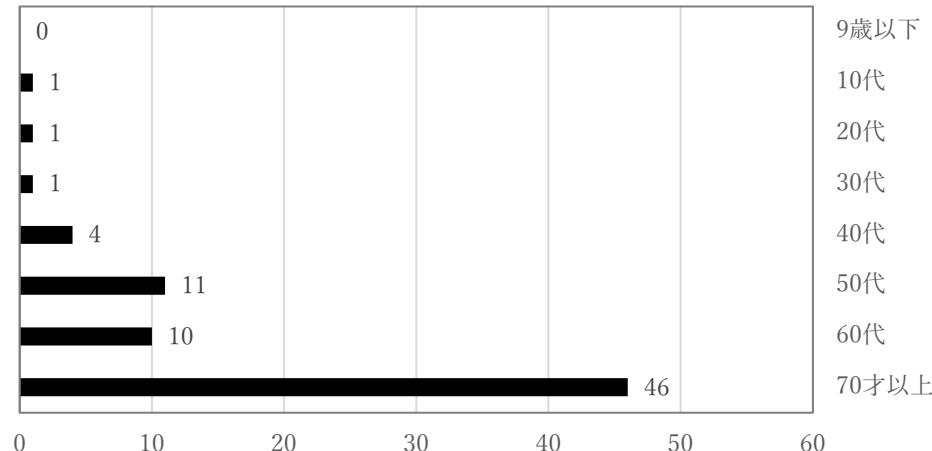
- 幌呂見学会：幌呂地区湿原再生現地見学会
- 雷別植樹：雷別へ植樹に行こう YO !
- 市民講座：釧路湿原の「すごい！」を体験しよう

- 久著呂見学会：久著呂川自然再生見学ツアーワークショップ
- 雷別ドングリ：第1回「雷別ドングリ倶楽部」
- 水循環見学会：水・物質循環現地見学会

設問1. あなたの年齢を教えてください（選択式）

○参加者の年代（左表：各行事別の集計値、右図：回答項目別の6行事合計値（単位：人）以下同）

年齢\行事	幌呂見学会	久著呂見学会	雷別植樹	雷別ドングリ	市民講座	水循環見学会
記載無	0	0	0	0	0	0
9歳以下	0	0	0	0	0	0
10代	0	1	0	0	0	0
20代	0	0	1	0	0	0
30代	0	0	0	0	1	0
40代	0	2	0	0	1	1
50代	1	3	0	2	2	3
60代	3	0	1	1	4	1
70才以上	12	3	2	15	1	13
回答者数	16	9	4	18	9	18

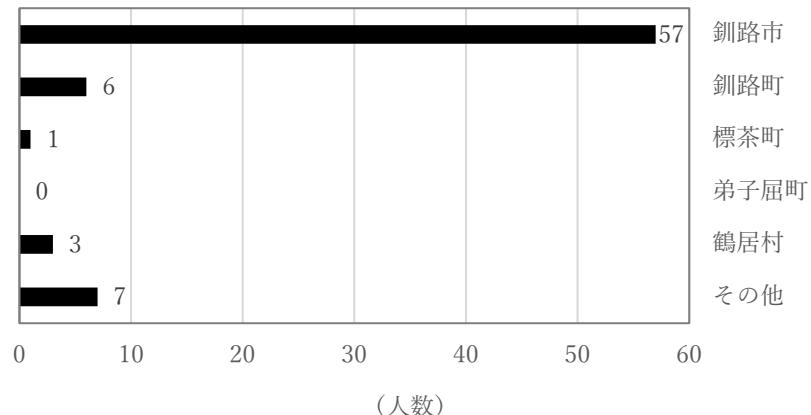


設問2. あなたのお住まいを教えてください（選択・記入式）

参加者の居住地

参加 行事 居住地	幌呂 見学会	久著呂 見学会	雷別 植樹	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
釧路市	11	5	4	16	7	14
釧路町	1	1	0	2	1	1
標茶町	0	0	0	0	0	1
弟子屈町	0	0	0	0	0	0
鶴居村	0	1	0	0	1	1
その他	4	2	0	0	0	1

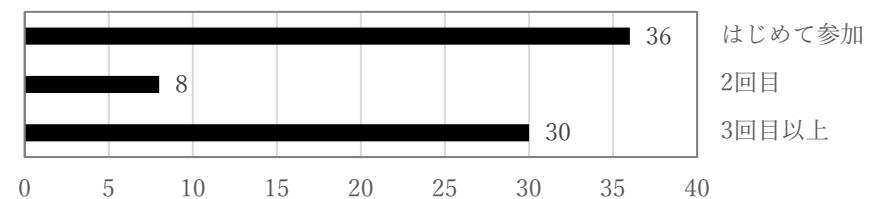
※その他内訳：千葉県（4）、栃木県（2）、帯広市（1）



設問3. 今回参加された行事への参加回数を教えてください（選択式）

○当該行事への参加歴（各行事集計値）

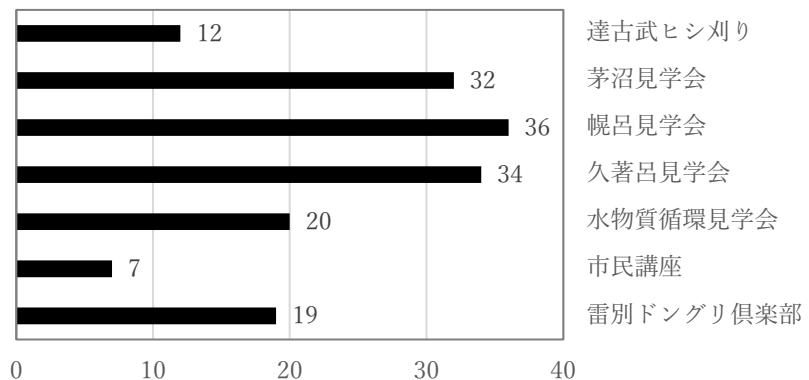
参加 行事 参加歴	幌呂 見学会	久著呂 見学会	雷別 植樹	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
はじめて	2	6	2	6	9	11
2回目	3	0	0	0	0	5
3回目以上	11	3	2	12	0	2



設問4. 自然再生協議会が実施する（今回参加した行事以外の）行事に参加したことがありますか（選択式・複数回答）

○他行事への参加経験

ある行事	幌呂見学会	久著呂見学会	雷別植樹	雷別ドングリ	市民講座	水循環見学会
達古武ヒシ刈り	6	0	0	4	2	0
茅沼見学会	13	3	1	7	2	6
幌呂見学会		4	1	8	3	6
久著呂見学会	11		3	8	3	9
水物質循環見学会	8	2	1	6	3	
市民講座	0	2	1	3		1
雷別ドングリ倶楽部	5	2	2		0	3



《参考》設問3. 4. の回答結果より、【釧路湿原自然再生協議会が実施する行事への参加経験】を集計

○自然再生協議会主催行事への参加経験

参加歴	幌呂見学会	久著呂見学会	雷別植樹	雷別ドングリ	市民講座	水循環見学会
はじめて参加した	1	4	1	5	4	7
参加したことがある	15	5	3	13	5	11

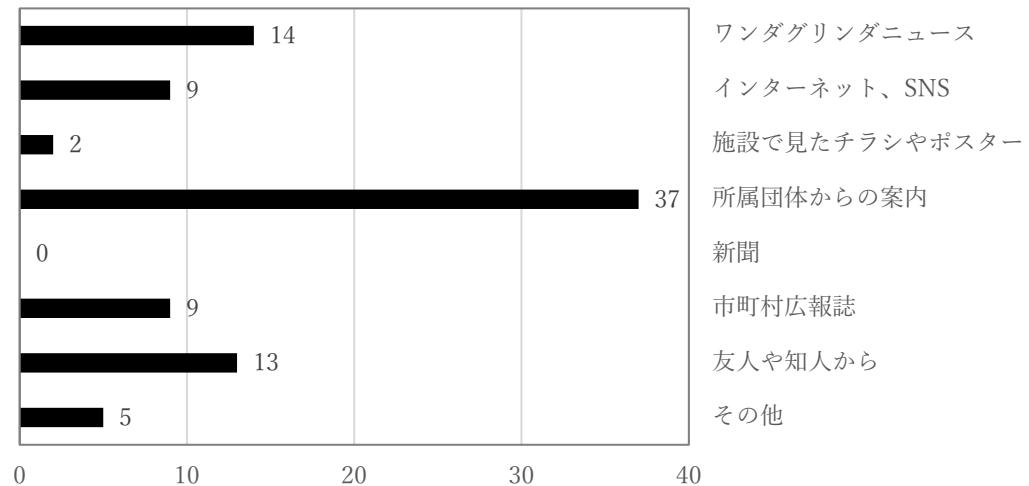


設問5. この行事をどのようにして知りましたか（選択・記入式・複数回答）

○参加した行事を知ったきっかけ

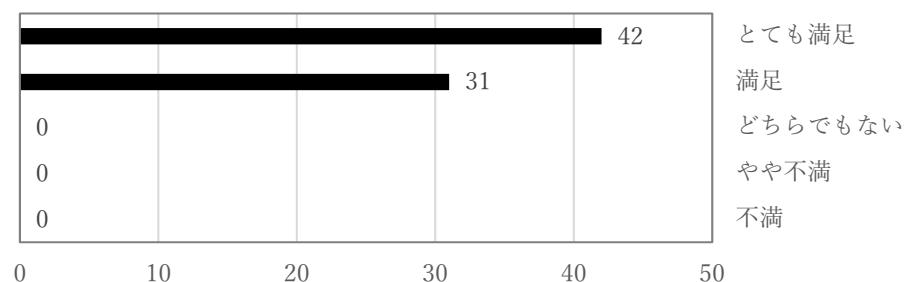
参加行事 広報媒体	幌呂 見学会	久著呂 見学会	雷別 植樹	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
ワンダグリンダ ニュース	3	2	0	4	4	1
インターネット、SNS	2	1	0	1	0	5
施設で見たチラ シやポスター	0	1	1	0	0	0
所属団体からの 案内	13	2	0	8	1	13
新聞	0	0	0	0	0	0
市町村の広報誌	1	0	3	5	0	0
友人や知人から	0	3	0	6	3	1
その他	2	0	0	0	1	2

※その他内訳：協議会からの案内（1）、主催者へ問い合わせた（1）



設問6. この行事に参加したご感想をお聞かせください（選択式）

参加行事 満足度	幌呂 見学会	久著呂 見学会	雷別 植樹	雷別 ドングリ	市民 講座	水循環 見学会
とても満足	7	6	1	8	9	11
満足	9	3	2	10	0	7
どちらでもない	0	0	0	0	0	0
やや不満	0	0	0	0	0	0
不満	0	0	0	0	0	0



その理由をご記入ください（設問6つづき、自由記載）

■幌呂地区湿原再生現地見学会 参加者回答

- ・スタッフの方の説明がとても良かった
- ・天気がくもりで午前中楽だった。ヨシ移植の時だけ陽射しが強くなつたがほぼ一日中くもり、スタッフの皆さんとの気遣いで水をもらつた。蒸し暑かったので助かった。前日夕方から雨だったので心配だったがハンノキの皮むきがうまくできたこと、たまに汗を流す「自然の中で」良い貴重な体験だった。
- ・良い運動になった。
- ・湿原再生に関わった事に！
- ・毎年前にやったところが見れる事。
- ・天気良く大変ありがとうございました。
- ・前に植えたヨシの育成をみることができた。

- ・前年に移植したヨシが生き生きしていた事。
- ・実際に手を動かして体験することと、植物についての説明と両方を得ることができて、とても有意義だった。この体験会に参加した人たちが、もう一步進んで体験・学ぶことができる advance コースが実施されたらしいなと思う。
- ・雨と思っていたが天気に恵まれた。
- ・湿原の知らない事が知ることができた。
- ・参加するごとに新発見があり自分の健康を保ち、以後にも参加したい。
- ・休み時間があつて良かった。
- ・長期滞在者なので現地ならでは貴重な体験ができた事。

■久著呂川自然再生見学ツアー 参加者回答

- ・川に入るなど、生き物を実際に触ったり体験がたくさんできたから。
- ・色々な場所や生き物が見れたから。

■第1回「雷別ドングリ倶楽部」 参加者回答

- ・ミズナラ、ヤチダモ、カツラ、キハダの区別を教えて頂いてありがとうございます。また参加したい。
- ・木に関するお話を職員の方に聞いたから。樹木の話をもっと聞きたい。
- ・少しの力が自然再生につながるように。
- ・大自然の中でおいしい空気にふれながらの作業が良かった！

- ・植樹出来たこと。
- ・多くの人が参加して良かった。
- ・個人では来る機会のない雷別、又植樹など珍しいので。
- ・いつも参加して楽しく、思い出が残る。

■市民講座 参加者回答

- ・先生のお話がわかりやすかった。
- ・普段体験出来ない事、大変勉強になった。
- ・天気も良く説明も楽しかった。
- ・湿原の中を実際に歩けた点。ふわふわでぬかるんでいるのが面白かった。
- ・湿原の普段行けないところに行けたこと。
- ・湿原の中を歩けたことがとても楽しかった。
- ・天気にも恵まれ歩きながら五感で感じることはもちろん新庄さんの科学的、歴史的なお話も聞け、理解がしやすかった。

■水・物質循環見学会 参加者回答

- ・はじめて来た所だったので新鮮。ドローン映像で丹頂づるを見れた。スタッフの方々の熱意（一生懸命）
- ・地元にいながらも、一人では見る事のできない場所や美しい景観を見られ、国のある仕事も垣間見られいい経験ができた。
- ・キラコタン岬（説明と散策）。
- ・専門的な説明と立入禁止の場所の見学、とても貴重な体験をさせて頂いた。
- ・ガイドの説明、解説がわかりやすく良く納得した。
- ・パネルでの説明が深みがあって良かった。ドローンで現地視察良かった。
- ・実際に歩いて、説明を聞き体験できた事がよかったです。特にキラコタン岬。
- ・キラコタン岬、コッタロ湿原、音羽橋など自分では行けない所、いろいろ解説していただいた。
- ・ドローンの映像はとても興味深かった。
- ・キラコタン岬の最先端まで行けた事。ドローンによる空撮。
- ・多くの新たな知識を得ることができて、知的好奇心を満たす事ができた。
- ・全体的には満足ですが、残念だったことが一つ、遊歩道を歩いたときに後方にいたので説明がほとんど聞こえなかった。スピーカーはあつたが、説明が始まった時に後ろはまだ歩いているので、踏んだ落葉の音で聞こえなかった。立ち止まった時は説明は既に進んでいて途中からだと何の話か分からず。遊歩道以外の説明は詳しくてためになつた。
- ・トリチウムの分析により 25Km 上流よりもぐり、50 年以上の丘に地中に湧き出すとはびっくりした。
- ・湿原の説明がとてもわかりやすかったです。知らないかった場所などに行けて知識が深かったです。
- ・詳しい資料を基にわかりやすい解説でとても有意義な 1 日でした。資料もそうですが実際に色々なものを実際に目にしながら取り組んでいる事柄のお話が聞けて大変勉強になりました。帰ってから復習もする。ありがとうございました。

設問7. この行事の中で最も印象が深かったことを教えてください（自由記載）

■幌呂見学会 参加者回答

- ・とても有意義な一日でした 環状剥皮だんだん上手になった。
- ・ヨシ移植して前年に自分達が移植したヨシが育ってるのを確認したこと。午後から参加したハンノキ幹は硬かった皮がペロっとむけたことがうれしい。歩行3キロと聞いて数年前左足を痛めてたので長い距離歩けるか心配だったが皆さんにはげましてもらってバス ⇄ ハンノキまで往復できた。
- ・ハンノキの樹皮はがし。
- ・温根内と遠く離れている訳でもないのに植物の成長が違っていた事。
- ・ハンノキ輪状はく皮。
- ・ヨシの移植。
- ・元の自然にかえるのを少しでも見れる事。
- ・一つ一つの事についてていねいに説明して頂きわかりやすかった。
- ・ハンノキの皮はぎ。湿原の再生はなかなかすぐに出るものではないことを身にしみてわかった。
- ・毎回事前の準備にありがとうございます。
- ・川嶋さんの詳しい説明。
- ・湿原を再生することの大変さ。
- ・年毎の湿原の進化が分かる。
- ・地層ボーリングの300年前の樽前山火山灰。
- ・ハンノキの樹皮はがし後 タンニンが酸化赤く変色して生命を感じた事。

■久著呂川自然再生見学ツアー 参加者回答

- ・一人では入れない川を見られた。
- ・箱メガネで水中を覗いたらヤマメが見られたこと。
- ・土砂調整地の工夫。
- ・胴長をはいて川の中の魚を見たこと。
- ・川の中を泳ぐ魚を見たこと。
- ・河床の土砂の流出を防ぐための工事（河床沈下）。
- ・植樹のための苗木を作ったこと。
- ・川の中に入る。

■雷別へ植樹に行こうYO！ 参加者回答

- ・環境問題への关心や植樹に興味があったのと、望楼からのパイロットフォレストの眺望が楽しみで参加しました。またこのような活動に参加したいと思っている。ありがとうございました。
- ・湿原再生協議会のレポートで報告されていた内容が今日理解できた。

■第1回ドングリ倶楽部 参加者回答

-
- ・植樹させて頂きましたが、本当に立派に成長してほしいと思う。湿原再生になれば良い。
 - ・植樹する土地が笹の根でとても堅く、苗が無事に育ってくれるかどうか心配になったこと。
 - ・説明が丁寧で詳しい。学習になった。これからも続けたい。
 - ・参加者が増加しているので活発な活動が期待できると思った。
 - ・植林（苗植）や保護管の設置が大変必要な事。
 - ・皆様と一緒に活動できしたこと。
 - ・いつも体験出来ない事が出来る。
 - ・昼食での対話等。
 - ・クワを持つことなどなかったので、固い土を掘って植樹して農家の苦労が分かった。
 - ・後世に自然を残す必要の大切さを学んだ。
 - ・植え付けの体験が出来て楽しめた。

■市民講座 参加者回答

-
- ・ミズゴケの厚さと揺れ。
 - ・湿地に埋まる体験、木道からは感じることが無いことがいっぱい。
 - ・ふわふわで揺れる！
 - ・体験↔学校教育（教科学習）とのつながりの面白さ。
 - ・ハンノキのこと。
 - ・ハンノキの繁殖。
 - ・湿原の中に胴長を着て入ったこと。深さ、柔らかさ、水の冷たさを体験出来て良かった。
 - ・普段知ることが出来ない湿原を知れた。
 - ・少しの違いで見た目に大きな変化が生まれていること、気温に比べて水がひんやりしていたこと。

■水・物質循環見学会

-
- ・キラコタンが想像していた所とちがついた（こんなに歩くとは思わなかった）。
 - ・鶴の美しい姿、見られて幸福だった。
 - ・全ての河川が釧路川へ合流している事、横堤の役割、河川の流入量、流出量を調べている事、すごいと思った。とてもおもしろい体験だった。

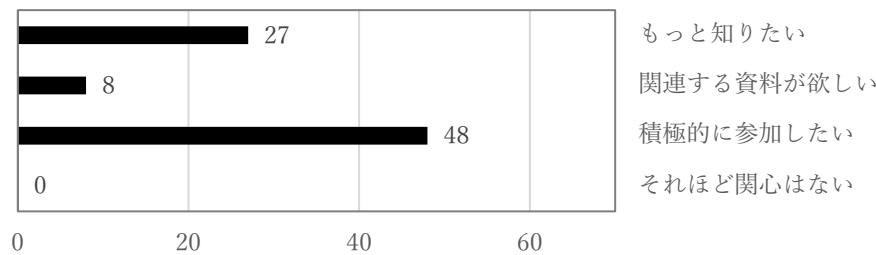
- ・キラコタンにオオハンゴウ草が以前より増えていた事。鹿の数多すぎ。ビジターセンターを歩いてクレソン鹿に食べられたのか前年よりミツガシワがへっていた。
- ・露頭の説明、見学。
- ・釧路湿原の役割、いろんな事があると改めて知った。
- ・ドローンの映像。
- ・ドローンが面白かった。
- ・ドローンで河川の交わり等が見れた事。
- ・ていねいな資料ありがとうございます。何度もひらき予習したい。
- ・二本松地区の露頭、自然の強さをあらためて知った。
- ・ドローンで見た雪裡川の直線の姿。
- ・ドローンの空撮映像で雪裡川が音羽橋から下流が人工的につくられた川という事が初めてわかった。右岸堤防を走り（約10年ぶり？）初めて横堤の役割を知り感銘を受けた。

- ・ハンノキは窒素リン等を葉から回収しないため、土壤へそれ等の養分を供給するということ。湧水が多いこと。
- ・右岸堤防、通常は入れない所を見ることが出来て興味深かったです。湿原に堤防の役割があることを初めて知った。準備してくださった皆さん、楽しかったです。どうもありがとうございました。
- ・キラコタン岬のお話を聞くことが出来て大変有意義だった。絶滅によりタンチョウが発見されすばらしい所を見る事が出来た。
- ・キラコタン岬散策。ドローンでの雪裡川の様子をみたこと。
- ・初めて来たキラコタン岬から見た川の蛇行を見て、おそらく太古の昔の人々が見たであろう景色を見ることができたこと、その美しさに感動した。

設問8. 今回訪れた事業地では、再生事業が行われています。再生事業について関心はありますか （選択式・複数回答）

○自然再生事業への関心

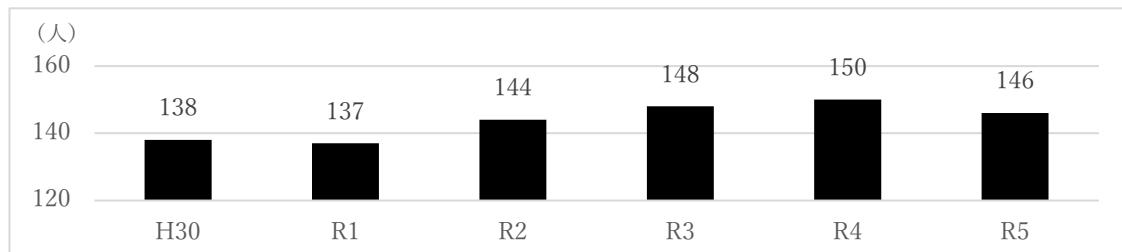
関心度	参加行事	幌呂見学会	久著呂見学会	雷別植樹	雷別ドングリ	市民講座	水循環見学会
もっと知りたい		5	6	0	1	6	9
関連する資料が欲しい		2	2	0	1	0	3
積極的に参加したい		12	5	2	14	6	9
それほど関心はない		0	0	0	0	0	0



第4期釧路湿原自然再生普及行動計画(2020-2024)における概況

協議会、小委員会の参加状況

構成員数



新規登録者数

年度	個人	団体	計
R2	6	1	7
R3	6	0	6
R4	7	2	9
R5	3	0	3

実施内容（令和2年度～令和5年度）

小委員会等	主な取組み
生態系評価ワーキンググループ	釧路湿原周辺における再生可能エネルギー事業に関する提言（令和5年度） 釧路市長への提出、自然再生協議会ポータルサイトへの掲載
	太陽光発電事業計画策定にあたって配慮すべき希少種の生息地について（令和5年度）WEBマップ、希少種・法規制に係る紹介等の自然再生協議会ポータルサイトへの掲載
湿原再生小委員会	第3期 達古武湖自然再生事業実施計画 策定（令和5年度）
河川環境再生小委員会	釧路湿原自然再生事業 釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画の策定（令和2年度）
	釧路川茅沼地区の旧川復元－自然再生事業における目標設定からモニタリングまでの技術資料－公開（令和5年度）
森林再生小委員会	釧路湿原達古武地域 再生事業実施計画 付録追記（令和2年度）
水循環小委員会	釧路湿原の水循環－現地観測とシミュレーションによる釧路湿原の水と物質の移動形態の解明－公開（令和3年度）
再生普及小委員会	小委員会事務局が実施する市民参加の取組みの実施状況および共通アンケートとりまとめ、実施報告の普及ポータルサイトへの掲載・広報（令和2年度～令和5年度）
地域づくり小委員会	釧路湿原自然再生協議会地域づくり小委員会活動報告書(中間報告)～ワイヤーズをを目指して～公開（令和3年度）
	釧路川保全と利用のカヌーガイドラインについて（改訂版）の発行・普及（令和3年度）
	釧路川カヌーネットワークと連携した釧路川入川届の普及（令和4年度）

コロナ禍で得られた知見

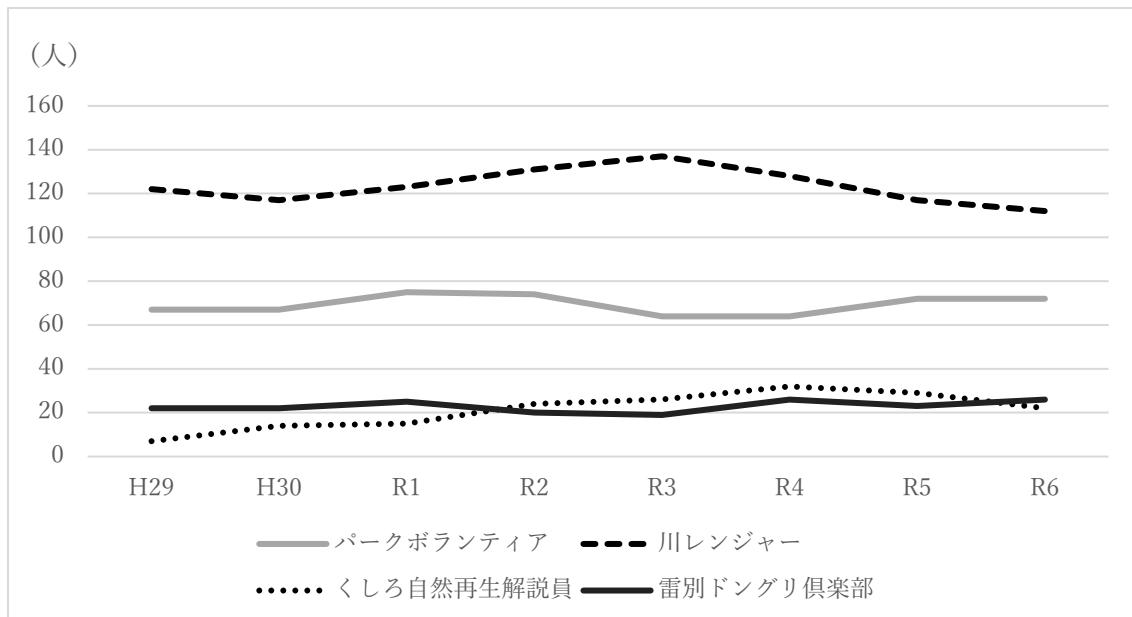
- ・様々な工夫や配慮により行事や会議の質が向上する
- ・適切な人数規模で行うことで参加者の理解が深まる
- ・オンラインを活用した行事や会議の有効性
- ・アーカイブ配信、映像資料の活用等、情報共有方法が多様化

協議会事務局が運営するボランティア制度の状況

登録者数・継続者数・新規登録者数（令和2年度～令和6年度）

名称（所管）	登録者 延べ人数	4年以上の継続参加者 (令和5年登録者対象)	第4期行動計画期間の 新規登録者数
パークボランティア (環境省)	346	55	17
川レンジャー (釧路開発建設部)	625	81	97
自然再生解説員 (釧路開発建設部)	129	15	6
雷別ドングリクラブ (釧路湿原森林ふれ あい推進センター)	114	13	17

○登録者数推移（平成29年度～令和6年度）



登録者所在地（令和5年度）

所在地	パークボランティア	川レンジャー	くしろ自然再生解説員	雷別ドングリ俱楽部	計(%)
釧路市	53	88	19	16	176 (73%)
釧路町	4	14	7	4	29 (12%)
標茶町	4	10	0	0	14 (6%)
鶴居村	7	3	0	1	11 (5%)
弟子屈町	1	2	1	2	6 (2%)
厚岸町	1	0	2	0	3 (1%)
札幌市	1	0	0	0	1 (0%)
東京都	1	0	0	0	1 (0%)

取組み内容（令和2年度～令和5年度）

○パークボランティア（釧路自然環境事務所）

- ・ガイド回数 9回、聴聞者延べ 107名
- ・外来種防除 101回、参加者延べ 294名（一般参加者含む）
- ・清掃活動 43回、参加者延べ 625名（一般参加者含む）
- ・エゾシカカウント 76回 参加者 219名

○川レンジャー（釧路開発建設部）

- ・観察活動報告件数 延べ 45回
- ・学習活動 9回、参加者延べ 142名

○くしろ自然再生解説員（釧路開発建設部）

- ・ガイド回数 75回、聴聞者延べ 2844名

○雷別ドングリクラブ（釧路湿原森林ふれあい推進センター）

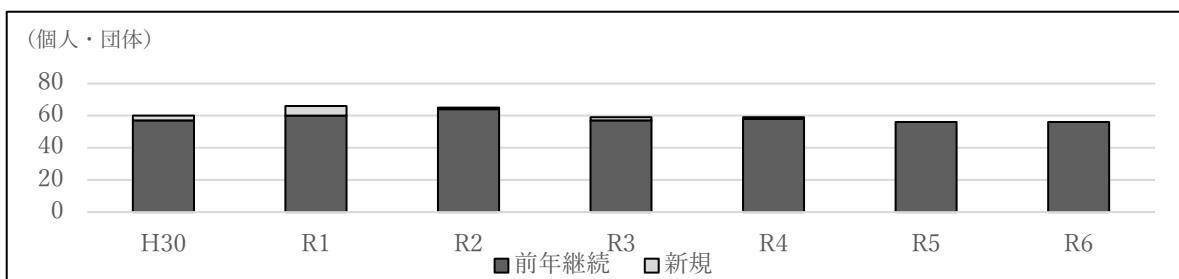
- ・活動回数 14回、参加者延べ 186名

ワンダグリンダ・プロジェクトの状況

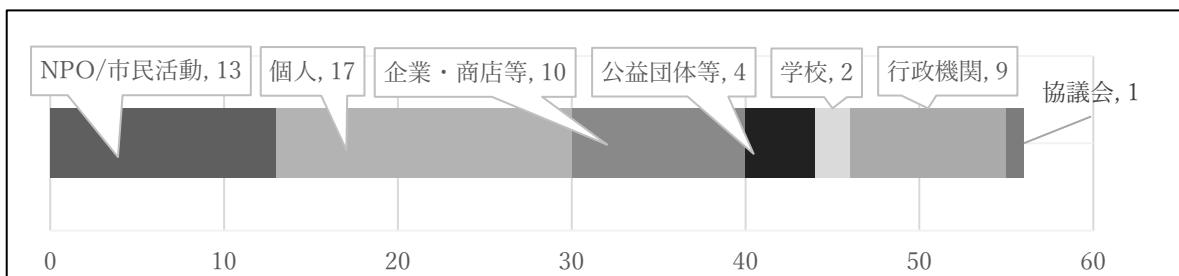
登録者数

○令和 6 年度登録者数 56 個人・団体

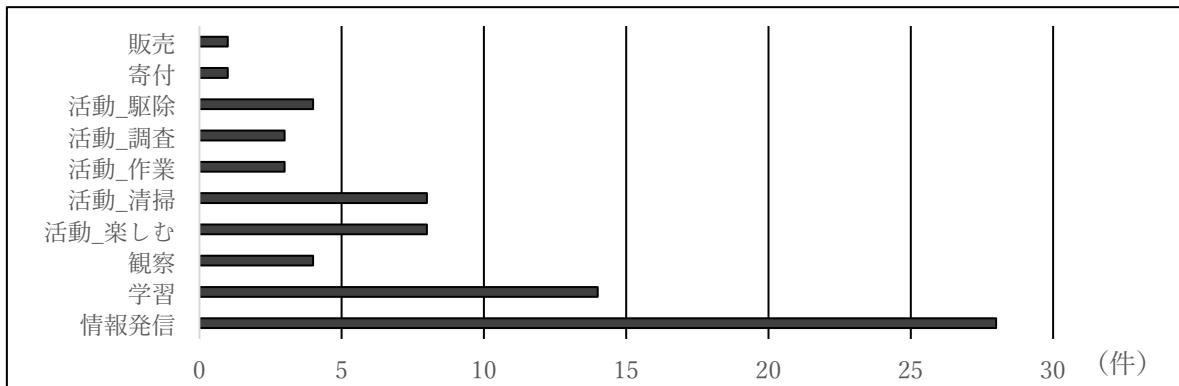
○登録者推移



登録主体の属性



登録活動の内容（令和 6 年度）



登録継続率（令和 6 年度）

5 年以上参加している個人・団体 96% (54 個人・団体)

新規登録数・属性・取組み内容（令和 2 年度～令和 6 年度）

属性	個人・団体数	取組み内容
個人	2	学習、情報発信
行政	1	学習、情報発信
NPO	1	学習

情報発信の状況

全国紙および地方紙における報道掲載数

○検索ワード 釧路湿原

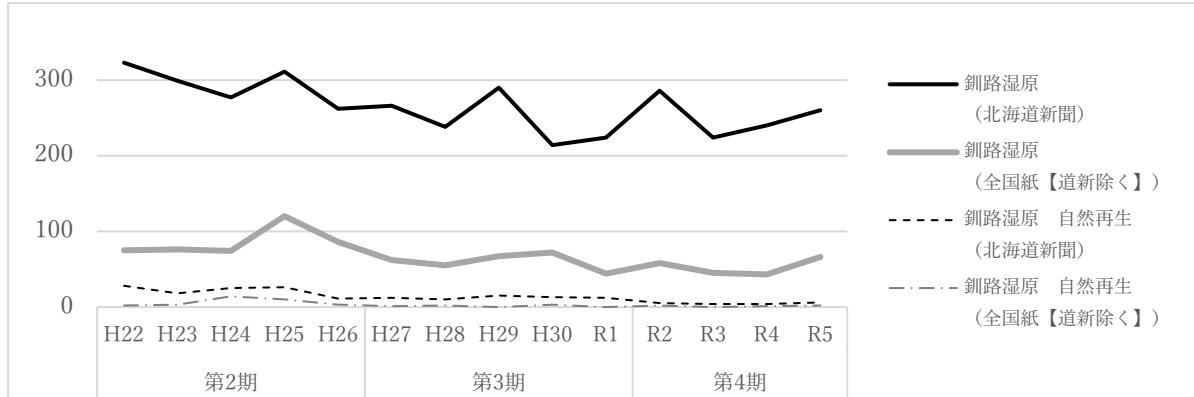
- ・全国紙 60 件（第 3 期計画 年平均）→53 件（第 4 期計画 年平均）
- ・地方紙 北海道新聞 294 件（第 3 期計画 年平均）→246 件（第 4 期計画 年平均）

○検索ワード 釧路湿原自然再生

- ・全国紙 1 件（第 3 期計画 年平均）→1 件（第 4 期計画 年平均）
- ・地方紙 北海道新聞 12 件（第 3 期計画 年平均）→5 件（第 4 期計画 年平均）

○釧路湿原に関する記事（目視による確認）

- ・釧路新聞 116 件/年（令和 5 年度）



※日経テレコンで検索。新聞全国紙（日経、朝日、毎日、読売、産経）、北海道新聞において、見出し、または本文に「釧路湿原」、「釧路湿原 自然再生」を含む記事数。

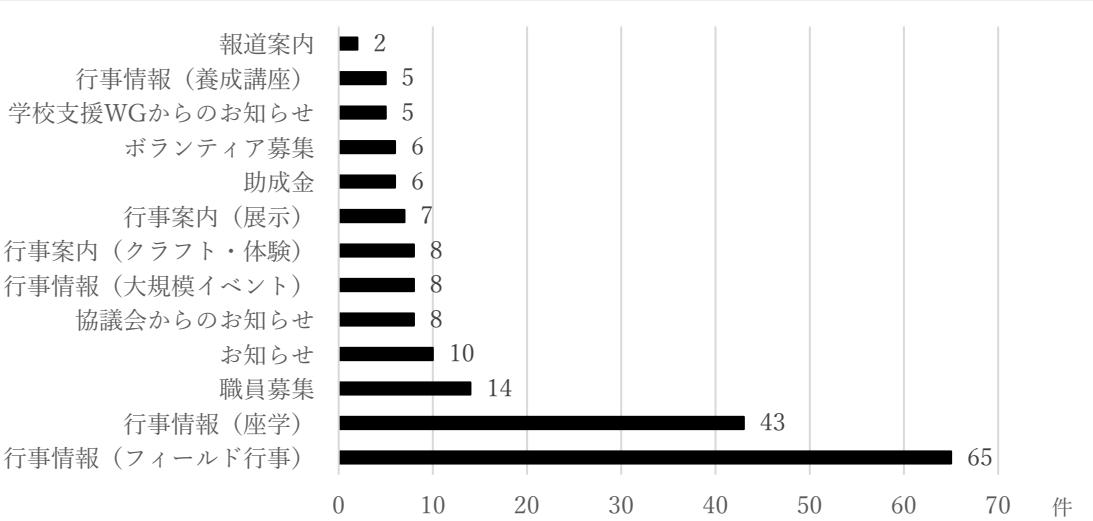
メールニュース配信状況

○配信者数

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
配信数	275	277	295	305	281	288	286

○延べ発行数：187 件（令和 2 年度～令和 5 年度）

メールニュース配信内容（令和 2 年度～令和 5 年度）

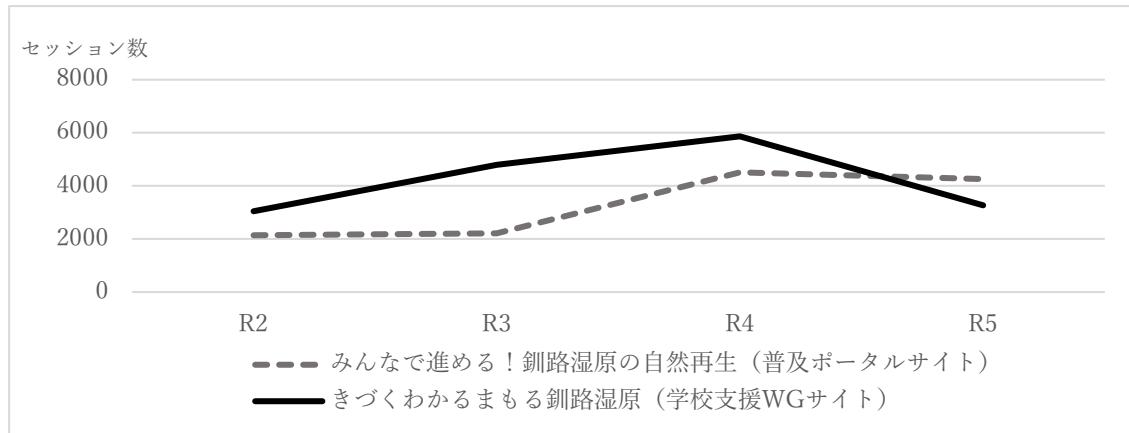


WEB サイトアクセス数（令和 5 年度）

みんなで進める！釧路湿原の自然再生（kushiro-wanda.com/）：4,253 セッション

きづく わかる まもる 釧路湿原（kushiro-ee.jp/）：3,262 セッション

○アクセス数推移（令和 2 年度～令和 5 年度）



※Google アナリティクスにおいて各年度の累計セッション数をカウント。

掲載内容

第 4 期計画期間中の新規作成、更新ページ

【みんなで進める！釧路湿原の自然再生】

- ・ワンダグリンダ・プロジェクト参加団体の紹介（一覧・45 団体・個人の紹介ページ作成）
- ・釧路市中央図書館への資料収蔵の案内（トップページでの案内、収蔵資料掲載）
- ・現地見学会 取組み報告・動画掲載（各年度行事終了後に実施内容を掲載）
- ・ワンダグリンダニュース（メールニュース配信内容の掲載 掲載頻度：2 回/月）
- ・釧路湿原イベントカレンダー（メールニュース案内行事をグーグルカレンダーに掲載）
- ・再生普及小委員会、推進連携チーム、学校支援 WG 実施状況（資料、議事要旨を掲載）

【きづく わかる まもる 釧路湿原】

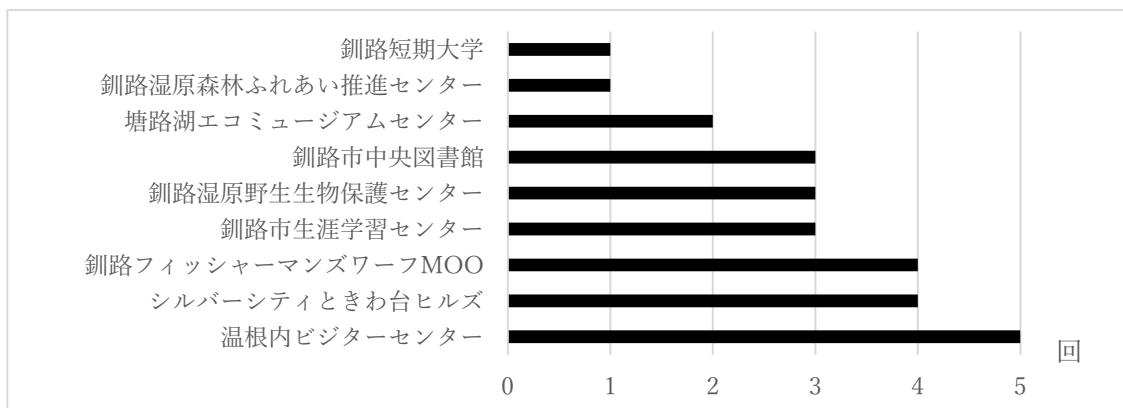
- ・映像資料（6 種の動画掲載ページ作成、52 種の動画掲載）
- ・フィールド情報マップ（2 つのフィールド情報を追加掲載）
- ・教員研修講座（5 講座の実施記録を追加掲載）
- ・ワーキンググループ実施状況（実施概要、配布資料、議事要旨を掲載）
- ・やってみよう！ジュニア研究（6 校、児童 197 名の学習成果を掲載）
- ・これまでの支援事例（学習のフォローアップ 23 件、フィールド学習の支援 14 件、モデル授業の実施 17 件の実施概要を掲載）

紙媒体、展示等での情報発信の状況

○企画展示実施回数

年度	R2	R3	R4	R5	計
実施回数	3	6	10	7	26

○実施場所（令和2年度から令和5年度）



○展示内容（令和2年度から5年度）延べ26回の企画展示における各展示の回数)

展示内容	展示回数
現地見学会広報	13回
自然再生事業紹介	12回
ワンダグリンダ登録団体と連携した普及	12回
ワンダグリンダ登録団体紹介	8回

※対象期間における延べ26回の企画展示における各内容の展示回数

自然再生事業地の活用状況

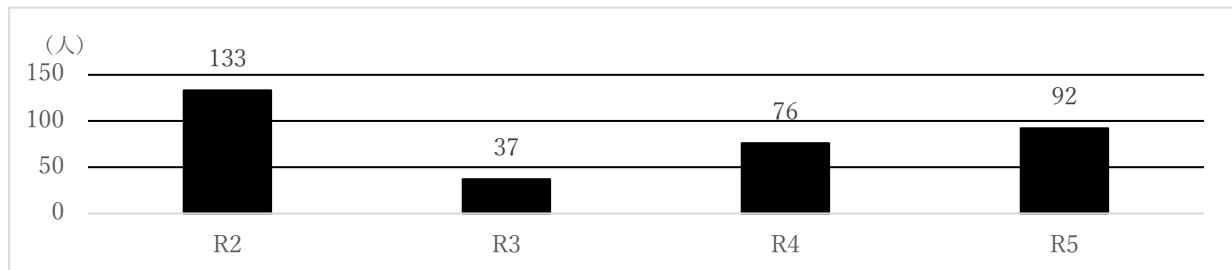
協議会事務局による取組み

○自然再生事業地 現地見学会実施件数 ※水循環、市民講座を除く

年度	R2	R3	R4	R5	計
実施回数	6	3	6	5	20

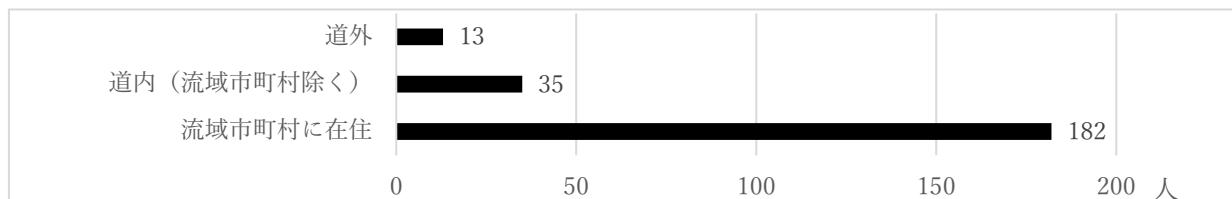
○参加者数

- ・一般参加者 延べ 338 人（令和 2 年度～令和 5 年度）※水循環、市民講座を除く



○参加者属性（令和 2 年度～令和 5 年度）※水循環、市民講座を除く

- ・参加者年齢層 50 歳未満の参加者の割合 31%
- ・参加者の居住地



○参加回数 ※水循環、市民講座を除く

- ・参加行事への参加経験：初めて参加した参加者の割合 49%（令和 2 年度から 5 年度）
- ・協議会事務局主催行事への参加経験：初めて参加した参加者の割合 32%（令和 3 年度～令和 5 年度）

○実施内容（令和 2 年度～令和 5 年度）

事業地	イベント名	主催	実施内容
幌呂	幌呂地区湿原再生 現地見学会	釧路開発 建設部治 水課	事業説明、事業実施後の植生の見学、泥炭の観察、ヨシの移植・ハンノキの環状剥皮体験
達古武	カヌー de ヒシ刈 り in 達古武湖	環境省釧 路自然環 境事務所	カヌーでのヒシ刈り、再生した水草の観察等
茅沼・ ヌマオ ロ	茅沼地区旧川復元 現地見学会	釧路開発 建設部治 水課	茅沼地区では釧路川をカヌー等で下りながら旧川復元の効果を観察。ヌマオロ地区では魚類等の調査、希少生物の生息状況や再生事業の取り組みについて解説。

事業地	イベント名	主催	実施内容
雷別	雷別ドングリ俱楽部	釧路湿原 森林ふれ あい推進 センター	郷土樹種である広葉樹の植樹、植栽木への保護菅（ツリーシェルター）被覆作業を実施
	企業との協働による広葉樹の森林づくり		
	若者 YO ! 雷別へ 植樹に行こう YO !		
達古武	自然再生を考える 調査体験会 沢の 生き物調べ	環境省釧 路自然環 境事務所	沢の源流部まで歩きながら、湧水や沢に暮らす生き物の観察、森の役割について解説
久著呂	久著呂川自然再生 の見学ツアー	釧路建設 管理部治 水課	上流域から湿原流入部までを訪問し、自然河川の特徴、水辺環境の回復状況の体験後、水辺林・緩衝帯予定地、河川沿いの土砂調整池、排水路合流部沈砂池、湿原流入部土砂調整池の整備状況、土砂堆積状況を見学。

教育分野における活用

○実施件数、参加者数、実施内容

事業地	件数	人数	活用主体	実施概要
達古武（森林再生）	22	280	標茶小学校、釧路湖陵高校、多賀城高校、釧路市生涯学習センター	森林再生の意味、取組みの学習、地表性昆虫、水の生き物調査等
達古武湖 (湿原再生)	13	387	標茶小学校、富原小学校	課題、事業地での取組みの学習、湖の観察等
幌呂（湿原再生）	5	64	阿寒高校、下幌呂小学校、つるいっ子、JICA	事業地での取組みの学習、湿原植生、魚類、泥炭の観察等
茅沼 (河川環境再生)	2	22	釧路国際ウェットランドセンター、JICA	事業地での取組みの学習、水生生物の捕獲、河畔林の林床植生、砂州の土壤を調査
久著呂（土砂流入）	1	6	JICA	事業地での取組みの学習

そのほかの活用事例

達古武湖（湿原再生）：環境コンサルタント株式会社主催行事 9名参加

教育分野における釧路湿原の活用状況

流域市町村の学校における釧路湿原を活用した学習の実施状況・学校支援の状況

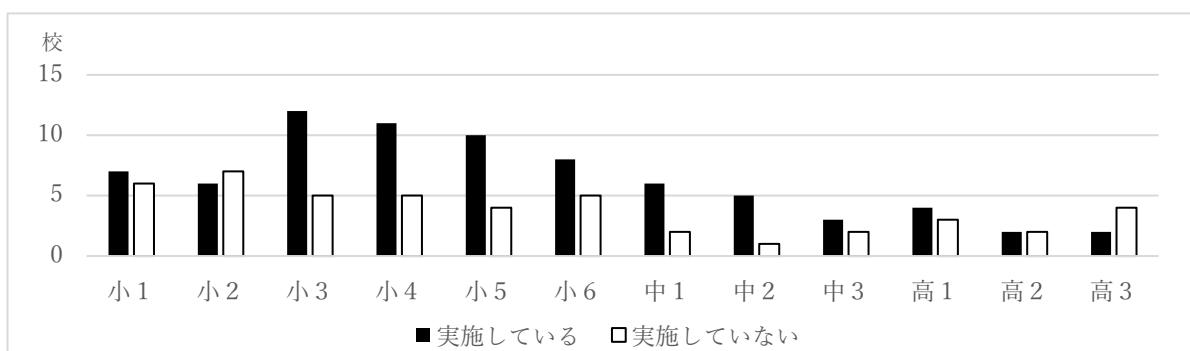
○釧路湿原や身近な自然環境を題材とした学習の実施状況（学校アンケート調査より）

調査対象：流域 5 市町村の小学校 43 校、中学校 26 校、高等学校 12 校

回答率：小学校 21 校（回答率 49%）、中学校 7 校（回答率 27%）、高等学校 7 校（回答率 58%）

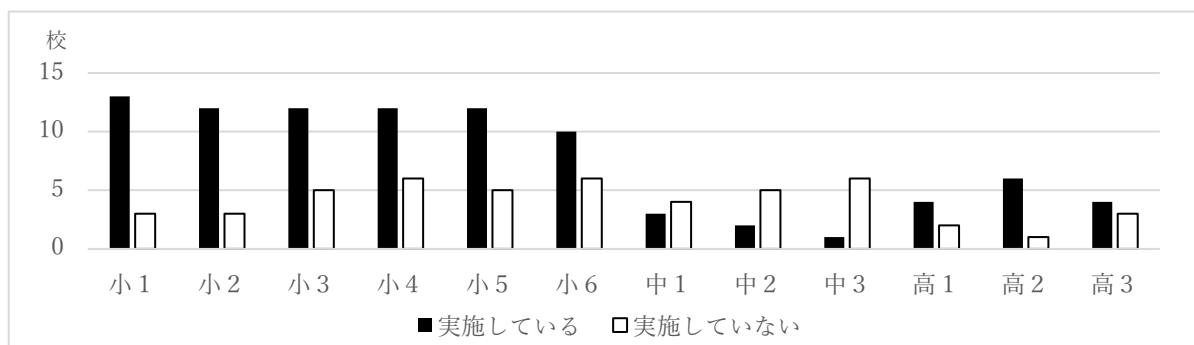
・総合的な学習（探求）の時間で実施

小学校 18 校（回答校の 86%）、中学校 6 校（回答校の 86%）、高等学校 5 校（回答校の 71%）
(学年毎の実施状況)

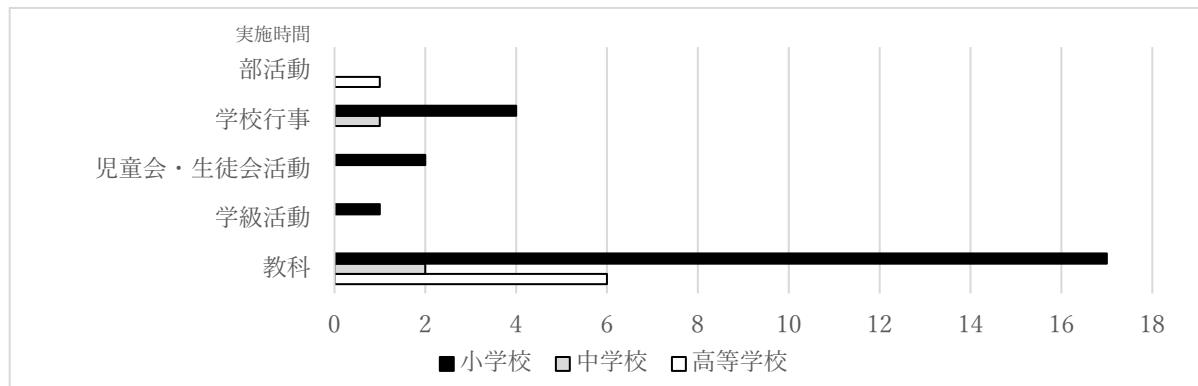


・教科や特別活動で実施

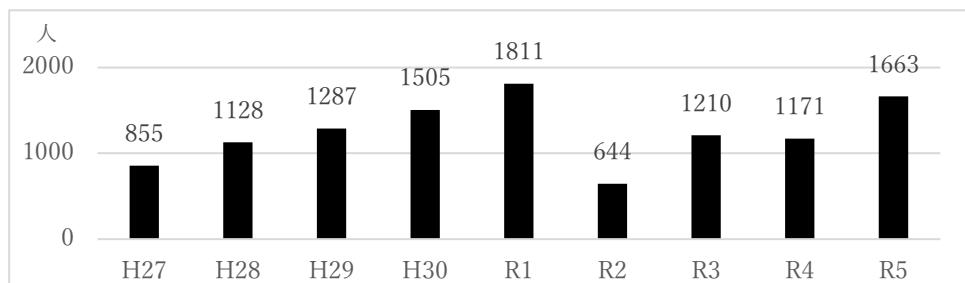
小学校 17 校（回答校の 81%）、中学校 3 校（回答校の 43%）、高等学校 6 校（回答校の 86%）
(学年毎の実施状況)



(実施時間)

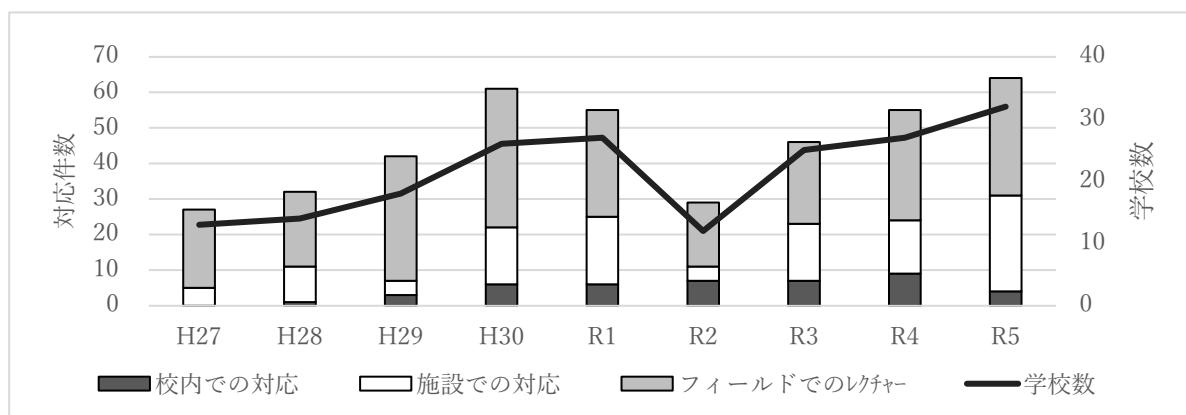


○対応人数



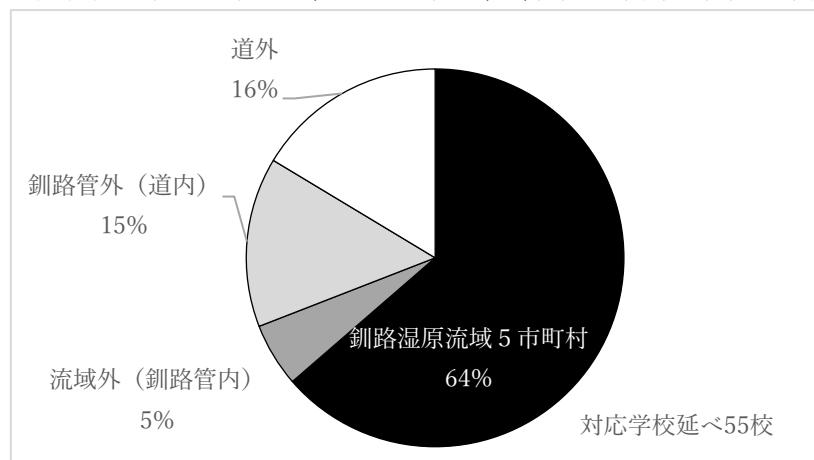
※温根内ビジターセンター、塘路湖エコミュージアムセンター、釧路湿原野生生物保護センターでの指導員等による対応含む

○学校数、対応件数



※温根内ビジターセンター、塘路湖エコミュージアムセンター、釧路湿原野生生物保護センターでの指導員等による対応含む

○支援実施校の所在地（地域別の割合）（令和2年度～令和5年度）

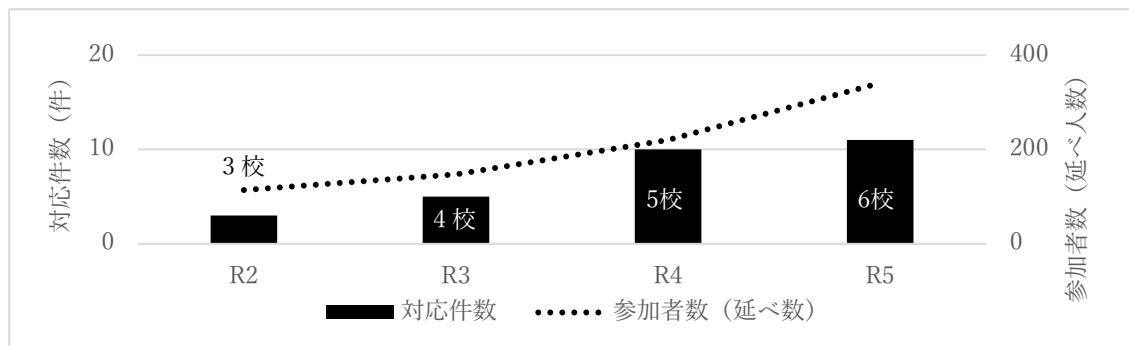


※釧路管外（道内）内訳：札幌4校、江別2校、帯広1校、中標津1校

※道外内訳：大阪2校、（以下各1校）宮城、福井、茨城、山梨、東京、福岡、ザンビア

モデル授業の実施状況

○対応件数、参加者数



○継続率（令和6年度）

- ・モデル授業実施校6校中5校（83%）が、モデル授業開始から継続して実施

○実施内容（令和6年度）

- ・訪問フィールド：温根内木道、右岸堤防湿原内、細岡展望台および周辺フィールド、達古武湖
および夢が丘遊歩道
- ・実施概要：フィールド学習後、各児童がテーマを設定し探究的な学習を実施。
実施校6校中5校が2回以上フィールド学習を実施。1回目のフィールド学習で
関心喚起を図り、2回目のフィールド学習で各自のテーマに沿った観察等を実施。

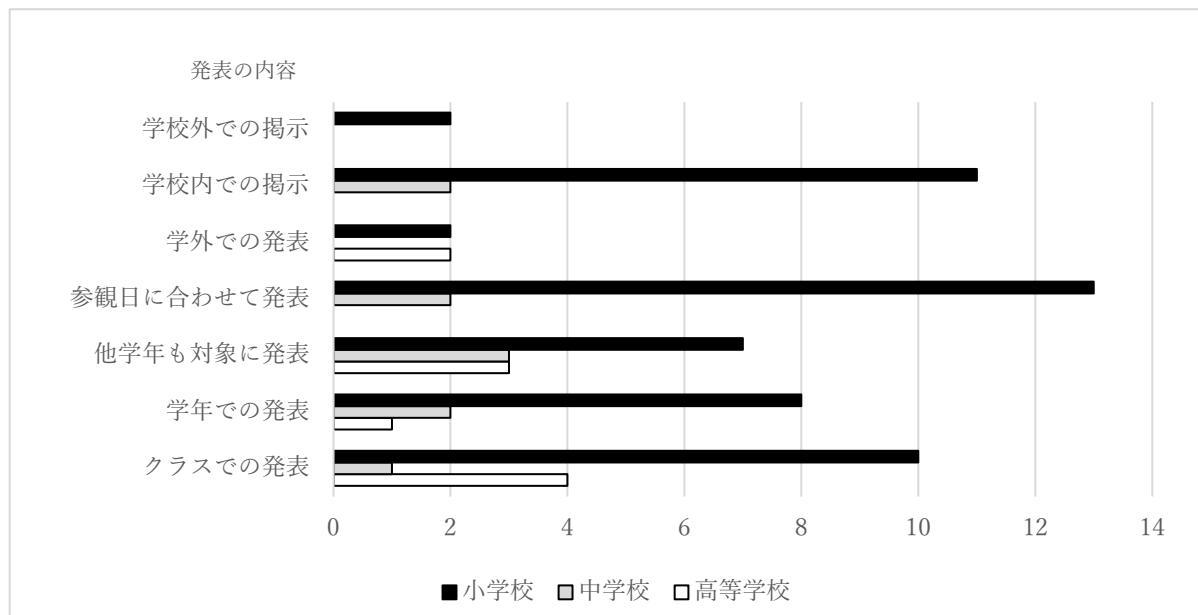
釧路湿原を題材とした学習発表会の取組み数（学校アンケート調査より）

調査対象：流域5市町村の小学校43校、中学校26校、高等学校12校

回答率：小学校21校（回答率49%）、中学校7校（回答率27%）、高等学校7校（回答率58%）

- ・釧路湿原や身近な自然環境を題材とした学習の発表会実施校

小学校18校（回答校の86%）、中学校6校（回答校の86%）、高等学校5校（回答校の71%）
(発表方法内訳)



釧路湿原を題材とした研究論文等の発信数

○検索サイトにおけるヒット数（令和2年から令和5年） 延べ37件

発行年	R2	R3	R4	R5
ヒット数	13	6	7	11

※論文・報文等検索サイト CiNii Articles、国立国会図書館サーチ、J-STAGEにおいて「釧路湿原」をキーワードに検索し、ヒットした論文の題名および抄録から釧路湿原との関連性が確認できたものを抽出

釧路湿原を題材とした研修等の実施状況

○教員研修講座 5件実施、75名参加（令和2年度から令和5年度）

○実施内容（令和2年度から令和5年度）

- ・オンライン講座タンチョウレスキーの現場から～釧路市動物園の取組み～ 11名参加
- ・オンライン講座生き物たちの命をつなぐ知恵～冬を耐え忍ぶ生き物を探そう！～ 14名参加
- ・環境教育の充実～地域とタンチョウのつながり（釧路教育研究センター共催） 9名参加
- ・体感！釧路湿原～植物群落と水の関係から湿原のしくみを学ぶ 9名参加
- ・環境教育の充実～キタサンショウウオ等希少種保護と脱炭素に向けた開発との共存（釧路教育研究センター共催） 32名参加

連携した取組みの事例（令和2年度から令和5年度）

○ワンダグリンダ・プロジェクト登録団体・個人と共同した普及

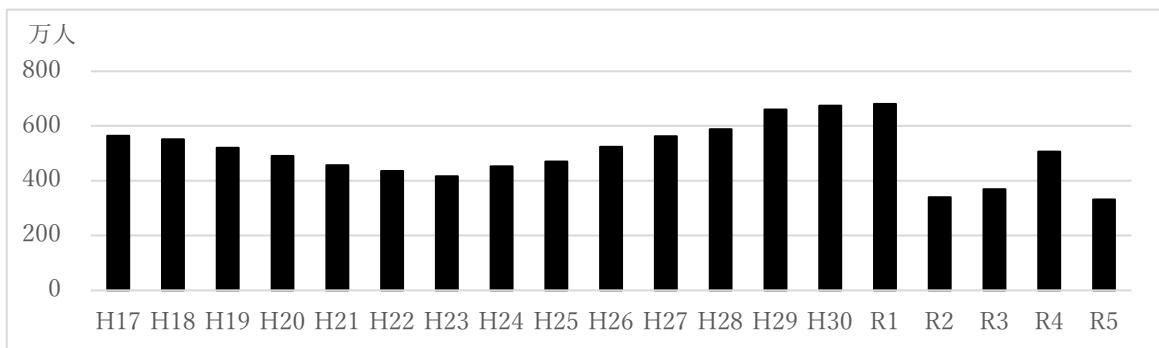
行事出展・企画展示 12件、学習支援 18件

○社会教育施設等と連携した湿原学習支援

フィールド学習支援 11件、映像資料 32種作成、成果発表等での助言 13件、企画展示 18件

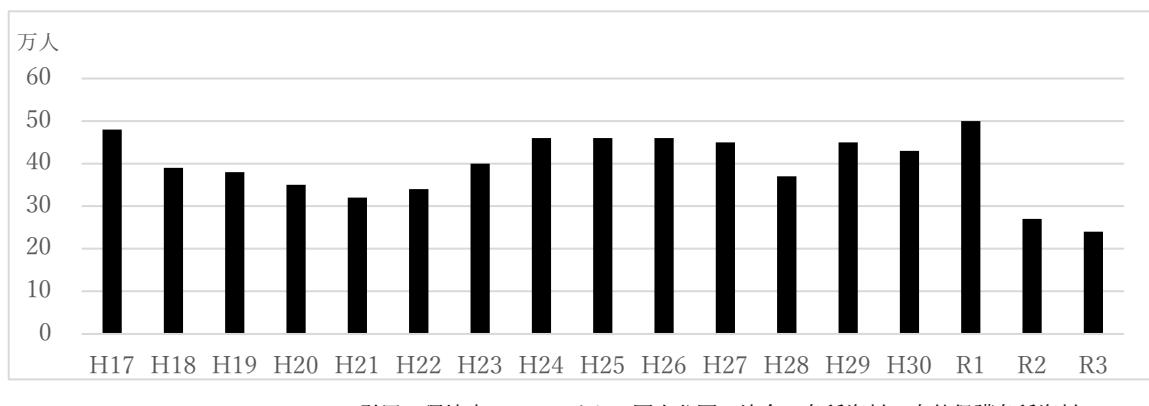
観光分野における釧路湿原の活用状況

流域 5 市町村の観光客入込数



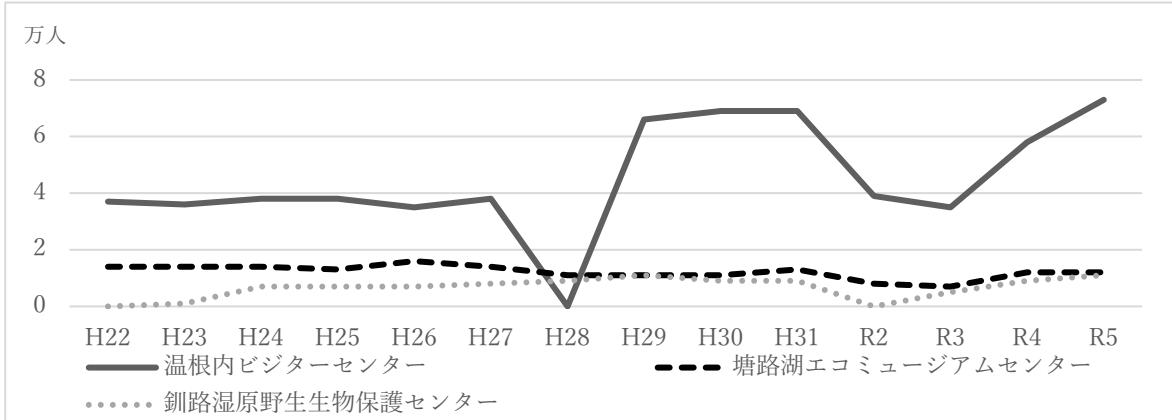
引用：釧路総合振興局 web サイト 産業振興部 商工労働観光課 観光入込客数・訪日外国人宿泊客数

国立公園利用者数



引用：環境省 WEB サイト 国立公園 法令・各種資料 自然保護各種資料

ビジターセンター等施設利用者数



※温根内ビジターセンターの平成 28 年度来館者数の減少は建て替えによる影響

※釧路湿原野生生物保護センターの令和 2 年度来館者数の減少はリニューアル工事による影響

釧路湿原を訪問するツアー等の状況

○道外からの旅行ツアー 訪問先・内容

- ・展望地：釧路市湿原展望台、サテライト展望台、北斗展望地、コッタロ湿原展望台、細岡展望台

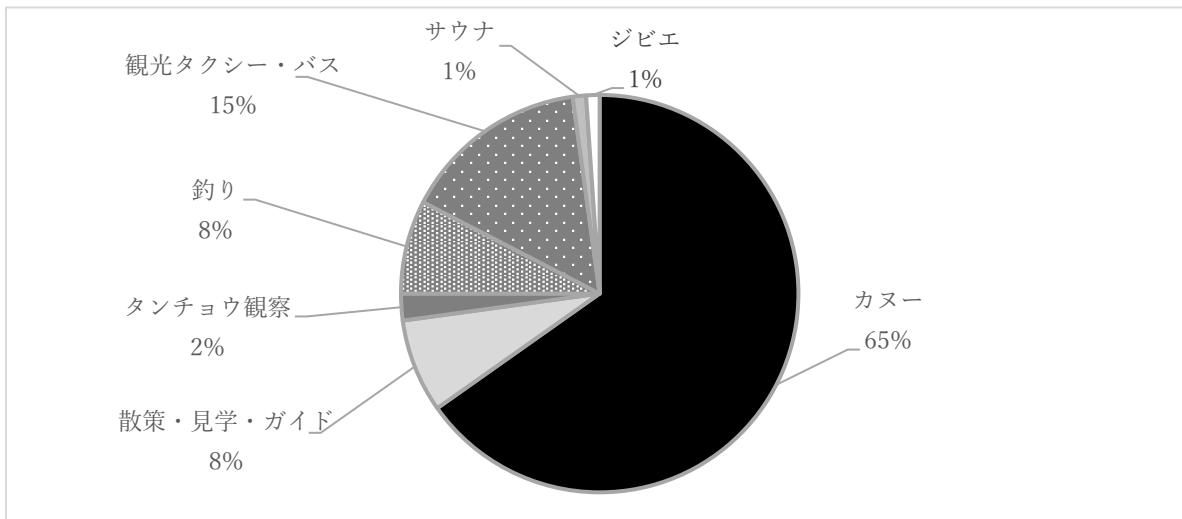
- ・アクティビティ：釧路川カヌー、温根内木道散策、キラコタン岬トレッキング

- ・タンチョウ観察：釧路市タンチョウ鶴自然公園

- ・観光列車：ノロッコ号、貸切列車

※旅行代理店数社のWEBサイト（クラブツーリズム、H.I.S、トラピックス（阪急交通社）、JMBツアーより検索。釧路湿原の訪問を含むツアーにおいて、行程表に記載された訪問先、活動を記載。（7月調べ）

○現地ツアーPRサイトにおける各ツアーの掲載割合



※検索を行った5サイト（釧路・阿寒湖観光公式サイト、VERTRA、たびらい、北海道体験.com、そとあそび）の観光ツアー掲載数（延べ数）における、各ツアー掲載数（延べ数）の割合。サイト間での重複を含む。

※散策・見学・ガイドの内訳：細岡展望台、サルボ・サルルン展望台、釧路市湿原展望台、釧路市湿原展望台遊歩道、夢が丘展望台

湿原の賢明な利用に向けたルールの認知状況

○釧路川保全と利用のカヌーガイドラインの普及

- ・釧路川カヌーネットワーク協会（令和5年度会員数：21事業者）による「釧路川保全と利用のカヌーガイドライン」の普及活動

令和6年度 銀河国際ウェットランドセンター市民環境調査 実施要領

1. 目的

銀河川蛇行復元事業における河川改修の結果、再生事業の効果および事業地の水辺環境がどのように変化したか、または変化しているかについてのモニタリング調査を通じて、地域住民の自然再生への理解を深め、銀河湿原の生物多様性について関心を高める。

2. 主催 銀河国際ウェットランドセンター

3. 日時 令和6年10月12日（土） 8時30分から15時00分まで (少雨決行、荒天中止)

4. 場所 ヌマオロ地区旧川復元事業地（標茶町）

5. 募集人員 8名（先着順。小学5年生以上。）

6. 受付期間 令和6年9月20日（金）～10月8日（火）

- ・電話(0154-32-3110)にて受付（平日の9時～17時）
- ・定員に達し次第募集を停止します。
- ・申込時にどの項目の調査を希望するか伺いますが、ご希望に添えない場合がありますのでご了承ください。

7. 参加費 無料

8. 行程 8：20 銀河市役所集合

8：30 " 出発（ジャンボタクシーに乗車）

9：25 標茶町内コンビニエンスストア到着（昼食購入およびお手洗い）

9：40 " 出発

10：00 ヌマオロ地区旧川復元事業地到着、市民環境調査開始（適宜昼食）

13：00 " 終了

13：10 ヌマオロ地区旧川復元事業地出発

13：40 塩路湖エコミュージアムセンター到着
JICA研修員を交えての意見交換会

14：20 " 出発

15：00 銀河市役所到着

9. 持ち物 汚れてもいい服装、雨具、長靴、軍手、ゴム手袋、タオル
昼食（途中で立ち寄るコンビニで購入可）

10. 調査説明者 釧路国際ウェットランドセンター技術委員

11. 調査項目

(1) カワシンジュガイ（絶滅危惧種）の個体数測定

上流から運ばれる土砂の粒度の変化に対応して、分布するカワシンジュガイの変化が想定されることから、定点を設け、方形枠や箱メガネで定量的にカワシンジュガイの個体数をカウントする。

(2) 川床の土砂の粒度測定

蛇行河川の再生で、上流から運ばれてくる土砂の粒度の変化が想定されることから、ふるいを使用し、粒度を記録する。

(3) 河岸湿原域の土壤の水質測定

河岸から湿原域の土壤の水質（EC、pH）を記録し、再生事業による湿原の性状の変化を調査する。

12. その他

(1) 荒天の場合、中止判断につきましては朝7時に連絡します。

(2) 本調査は中米からのJICA研修員5名を交えて実施します。

(3) 参加者は傷害保険に加入します。

釧路国際ウェットランドセンター

「ヌマオロ地区旧川復元事業市民環境調査」

日時：令和6年10月12日（土）

場所：ヌマオロ地区旧川復元事業地（標茶町）

行程：10：00～13：00 調査

13：40～14：20 意見交換会（塘路湖エコミュージアムセンター）

参加者：新庄委員長、河内委員、藤原委員、事務局（佐藤、堀）、市民4名

JICA研修員5名（グアテマラ、メキシコ、コスタリカ、パナマ、ニカラグア）

JICA関係者3名（研修コースリーダーの照井主任技術委員含む） 計17名

※JICA研修の実習を兼ねて実施

調査項目

（1）カワシンジュガイ（絶滅危惧種）の個体数測定

上流から運ばれる土砂の粒度の変化に対応して、分布するカワシンジュガイの変化が想定されることから、定点を設け、方形枠や箱メガネで定量的にカワシンジュガイの個体数をカウント。

（2）河岸湿原域の土壤の水質測定

河岸から湿原域の土壤の水質（EC、pH）を記録し、再生事業による湿原の性状の変化を調査。

